

<タイトル>

みんなでしゃぼる！

承前啓後の精神で、挑戦し続ける海士町を目指して！

(テロップ：「昔からのものを受け継いで、未来を切り開くことの意」)

町民の皆様、出郷者の皆様、新年明けましておめでとうございます。

輝かしい令和4年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。皆様には、日頃から町政運営に対し、ご支援とご協力を賜りまして衷心より厚くお礼申し上げます。

【被災現場の早期復旧】

昨年のお盆を挟んでの二度にわたる豪雨は、家屋への浸水や崖崩れ、田畑や道路の冠水、崩落など、200カ所以上にわたって被害が及び、昭和52年の八・八災害に次ぐ大規模な災害に至りました。幸いにも人命にかかる被害はなく安堵致しましたが、被災された町民の皆様にはご苦勞とご心配をおかけしました。ここに改めて心からお見舞いを申し上げます。町としては、被災直後から復旧作業に着手しておりますが、本格的な復旧は、本年行うこととなります。町民の皆様が安心して生活できるよう一日も早い災害復旧に努力して参ります。

【感染予防対策の徹底】

新型コロナウイルス感染症が全世界に広まる中、地域経済や人々との交流は停滞し、そして、私たちの普段の暮らしまでもが一変した状況が約 2 年に亘って続いています。

本町では新型コロナウイルス感染症へ最も期待される対策として、早期のワクチン接種に全力を尽くしてきました。その接種状況ですが、2 回目を終えた方の割合は、89%（12 才以上）に達しました。昨年末からオミクロン株が世界的に流行する中、本町においては、国の動向を踏まえ出来る限り早い時期に第 3 回目のワクチン接種を行う予定です。

一人ひとりがマスクの着用、3 密を避ける、こまめな手洗い、体温チェック等の体調管理など、基本的な感染予防対策の徹底に引き続きご協力をお願い致します。

【海士らしい福祉魅力の推進】

町民の皆様の安心な生活に直結する高齢者福祉施設、特に特別養護老人ホーム諏訪苑を町も共同経営するという視点で、昨年 4 月に福祉魅力化特命担当課長を現場に派遣し、福祉の課題解決に取り組んできました。昨年の諏訪苑は、入所者が 23 名まで落ち込んだ時もありましたが、移住して来られた新規職員 3 名が夜勤もできるようになり、そして全ての職員が一丸となって取り組んできた結果、9 月末には 30 床全てが埋まり満床となりました。今後もさらに専門職の確保や育成を進め、短期入所の受け入れ数についても 1 日平均 2 床から徐々に増やしていくことで、町民の皆様が安心して住み続

けることができる体制づくりに、町としても尚一層取り組んで参ります。

また、将来における本町の福祉サービスの維持・継続を目的として、法人の体力、組織力を向上させるために検討を重ねている社会福祉法人の一本化につきましては、令和5年3月を目標として、関係者と理解を深めながら海士らしい福祉を推進して参ります。

【「つながる 800」人・歴史・文化の探求】

昨年から本格的にスタートを切った後鳥羽院遷幸 800 年記念事業。

9月11日の上皇ご着船の浜、崎地区での神迎え神事に始まり、10月16日には、島内外から大勢の参加者が集う中、遷幸記念大祭並びに記念文化祭が盛大に執り行われました。中でも、日本刀作刀技法と文化振興の第一線で活躍されている刀匠 月山貞利氏による約 50 年ぶりの隠岐神社神前鍛錬祭、奉納刀打ち初めの儀式は、境内に設けられた鍛冶場に町民の視線が注がれる中、夕闇の深まりと共に真っ赤に染まった玉鋼の塊から跳ね返る槌音の響きと火の粉舞い散る幻想的な光景に、800年の時を彷彿とさせるものを感じつつ、威風堂々たる古式伝統を固唾を呑んで見守ることができました。

後鳥羽院の和歌や刀剣など、多くの文化的資産とその価値が世界的にも注目をされている昨今、遷幸 800 年という節目を単なるイベント行事で終えてしまうというのではなく、後鳥羽院と隠岐との深い歴史を、現世代の私たちが、今一度学び直し、次の世代にしっかりと繋いでいくことが大切であるとの思いを強くしたところであります。

来たる1月9日より、NHKの大河ドラマで「鎌倉殿の13人」が始まります。ドラマ後半には後鳥羽上皇と北条義時の戦い、承久の乱が描かれるとのことであり、後鳥羽院ブームが巻き起こればと期待を寄せるところです。本年も「つながる800」をテーマに遷幸800年記念事業は続きます。3月6日には島民による創作劇「海士のごとばんさん」の上演。初夏には茶道裏千家家元の千宗室氏による献茶の儀式、秋には海をわたったの島一周神輿渡御や牛突き奉納大会など、様々な文化継承行事を展開していきます。本年も海士町の歴史と文化に皆様をお誘いします。

【世界とつながる海士の観光資源「Entô」】

昨年7月、隠岐ユネスコ世界ジオパーク拠点機能・海士町複合型宿泊施設「Entô」が完成いたしました。後鳥羽天皇ご遷幸800年という節目の年にこうしてグランドオープンを迎えることができましたのも、歴史の流れと縁を感じています。また、こうした一連の前へ踏み出す積極的な地域振興策への挑戦が評価され、観光庁長官表彰の受賞にもつながったことも光栄なことでありました。

コロナ禍で大打撃を受けた本町の観光産業が、「Entô」のオープンと同時に徐々に交流が再開され、少しずつではありますが、島が活気づく手応えを感じてきています。

そして、ジオパークの拠点施設という側面からもガイドの育成にも力を入れ、隠岐が有する資源や文化の価値向上をさらに高めて行くために国内外に情報発信し、世界とつ

ながる交流を進めて行きたいと思っております。

【ふるさと納税の活用で新たな挑戦】

昨年のふるさと納税は、前年を大きく上回り、初の2億円越えを達成できました。

昨年のふるさと納税は、前年を大きく上回り、2億円に近いご寄付をいただきました。

通常のご寄付に加え、昨年8月豪雨災害に関しても多くの支援金をいただきました。

ご寄付を賜りました海士町を応援して下さっている島外の皆様、この場をお借りしまして心より感謝とお礼を申し上げます。

さて、2020年にご寄付頂いたふるさと納税の一部は、島の未来を共に創る若者の新たな挑戦を支援するための財源として官民による「海士町未来共創基金」が創設され、海の資源を活用した新規事業2件が既にスタートしています。

事業実施者とは採択後の現在も AMA ホールディングス(株)、(一社)海士町未来投資委員会、半官半X特命担当職員らが連携し、伴走者として寄り添いながら進められているところです。こうした海士町未来共創基金の取り組みは、ふるさと納税を運営するサイトの最大手「ふるさとチョイス」が毎年実施している「ふるさとチョイス年間アワード2021・未来につながるまちづくり部門」において、全国自治体の中から見事大賞の座に輝くことができました。

これは単純に寄付額を上げる取り組みだけではなく、全国各地から海士町を応援して

下さるご寄付をどのように未来につなげていけるのかが高く評価された結果です。

2022年以降も全国の海士町ファンの皆様に「海士町未来共創基金」への関心を深めていただくと同時に、町民の皆様には島の未来につながる挑戦に本基金を活用していただきたいと願っております。

【離島にもっと若者の還流を！】

昨年から特命担当3部署（半官半X・外貨創出・人づくり）による「還流おこしプロジェクト」が始動しました。隠岐島前高校の卒業生や出郷者とも再び関係を構築しながら、全国から意志ある若者を島に呼び込み、短期での島暮らしを促す中で関係人口を高めていく活動に注目が集まっています。「大人の島留学」と銘打って取り組んでいる学生や社会人を対象にした中長期のインターシップは、12月末までのところで1年期間の大人の島留学生14名、3ヶ月期間の島体験生が3シーズンで約30人の参加があり、各事業所や集落にお世話になり、関係性を作りながら地域の貴重な人材として活躍しています。町内の商店や飲食店と連携しながら進めている地域通貨ハーン電子化への取り組みもその一つです。参加者の中には、体験の期間をもっと延長したいとか、島で就職を検討している若者も出てきております。

新年度には既に50名の大人の島留学生の内定が決まっており、離島に若者の還流を起こすための兆しが見え始めています。3年後には200名の若者が活躍できる場づくり

を創出し、Iターン者はもとより島前出身のUターン者の増加に繋がっていくような若
者で溢れかえる元気な海士町を築いていきたいと考えています。

【海士町史近現代編の活用を！】

明治期から令和初年までの本町の歩みをまとめた「海士町史近現代編」を昨年11月に
発刊致しました。町史編纂については、昔懐かしい「昭和」の時代に焦点をあて、作業
が進められていましたが、執筆者の郷土史家田中公氏が志半ばで他界されたことにより、
平成中期から手つかずの状態が続いていました。こうした状況下、3年前に海士町教育
委員会に学芸員として水谷憲二氏が就任したことを契機に町史編纂の作業を再開し、こ
れまでの原稿の整理に加え、さらに広範囲に詳細な調査を進めながら、後鳥羽院遷幸
800年を迎える節目の年に完成を見るに至りました。完成した冊子はフルカラーで写真
もたくさん掲載されており、読みやすいものになっております。是非多くの皆様に手に
取っていただき、海士町の歴史や文化に触れていただくことを願っています。ご協力を
いただいた町民の皆様をはじめ、関係者の皆様がこの場をお借りして心よりお礼申し上
げます。

【自立・挑戦・交流×継承・団結！】

自立に向けた挑戦に終わりはありません。

令和4年も大きな課題に果敢に立ち向かっていく必要があります。

医療福祉分野の人材確保。農林畜水産業の担い手育成。町内主力企業との連携による海士ブランドのさらなる発信。国内外の研修交流事業による関係人口の強化。DX社会を見据えた役場新庁舎のあり方等々。これらを克服していくためには、意志ある若者の島への還流が今後大きな鍵となり、大きなうねりを海士町から起こしていかねばと心を新たにしています。

終わりに、町民の皆様朗報がございます。

プロ野球楽天イーグルスの新人投手、滝中涼太選手をご存じでしょうか。実は、本町崎地区の郷土史家滝中茂さんのお孫さんにあたります。昨年はプロ2年目で10勝目を挙げるといふ素晴らしい成績を残しました。来季のご活躍が楽しみです。そして、海士町も滝中選手に負けじと飛躍を遂げる一年にしたいと思います。

本年も町民の皆様の大きな期待に応えるために、「心ひとつに、みんなでしゃべる！」を合い言葉に、町職員と一丸となり、共に汗を流しながら頑張っ参りますので、引き続きご理解とご支援をお願い申し上げますと共に、町民の皆様のご健勝とご多幸をご祈念致しまして、年頭の挨拶と致します。